

<暮らしの夢から“かたのサイズ”をめざす像までの流れ>

暮らしの夢

10. まちが働く舞台となり、みんながつながる元気な暮らし

資材の搬入、製品の出荷も便利になった。工業地域の環境が良くなり、新たな事業所が進出してきた。敷地の緑化をしたり、太陽光パネルなどを設置して環境にやさしい事業所も増えた。

私の事業所もフェンス修理の際、花壇をつくることにした。地域で花壇づくりをしている人が「この地域のイメージフラワーです」と言って花苗をもってきてくれた。こうしたお付き合いも事業所見学会を開くようになってからだ。地域清掃もしている。相互理解と人材確保につながればよいと思う。

(事業者)

七夕のシーズンには観光協会や市と連携して、テント村づくりを楽しんでいる。各店舗からのお勧め商品などの販売だ。

今年は七夕スペシャル弁当を企画し、子ども向け「お星さま弁当」とカップル向け「七夕伝説リベンジ弁当」が少し評判になった。B級グルメコーナーも人気だ。

販売などで障がい者の作業所の人が手伝ってくださる。日ごろからいろんな方々と協力しながら商売ができています。

七夕の時期だけでなく、こうした取り組みを通して、いろいろなアイデアが出て、それぞれの商売が活気づいている。利益は必ずしも多くはないが毎日が楽しく働ける。

(商業者)

交野を訪れる人が増えたので、貸自転車に乗り換えて市内をまわってもらおうパーク・アンド・ライドを実施した。市内の歴史資源や見どころ・穴場スポット、お店、散策ルートなど、目的ごとにマップを配布している。

観光ボランティアだけでなく、各地で物産販売員が臨時店舗を開いてがんばってくれている。おかげで、物産だけでなく、おもてなしの雰囲気、しつらえまでが、交野ブランドとして認められるようになってきた。自治会などの取り組みから地域ブランドも生まれている。

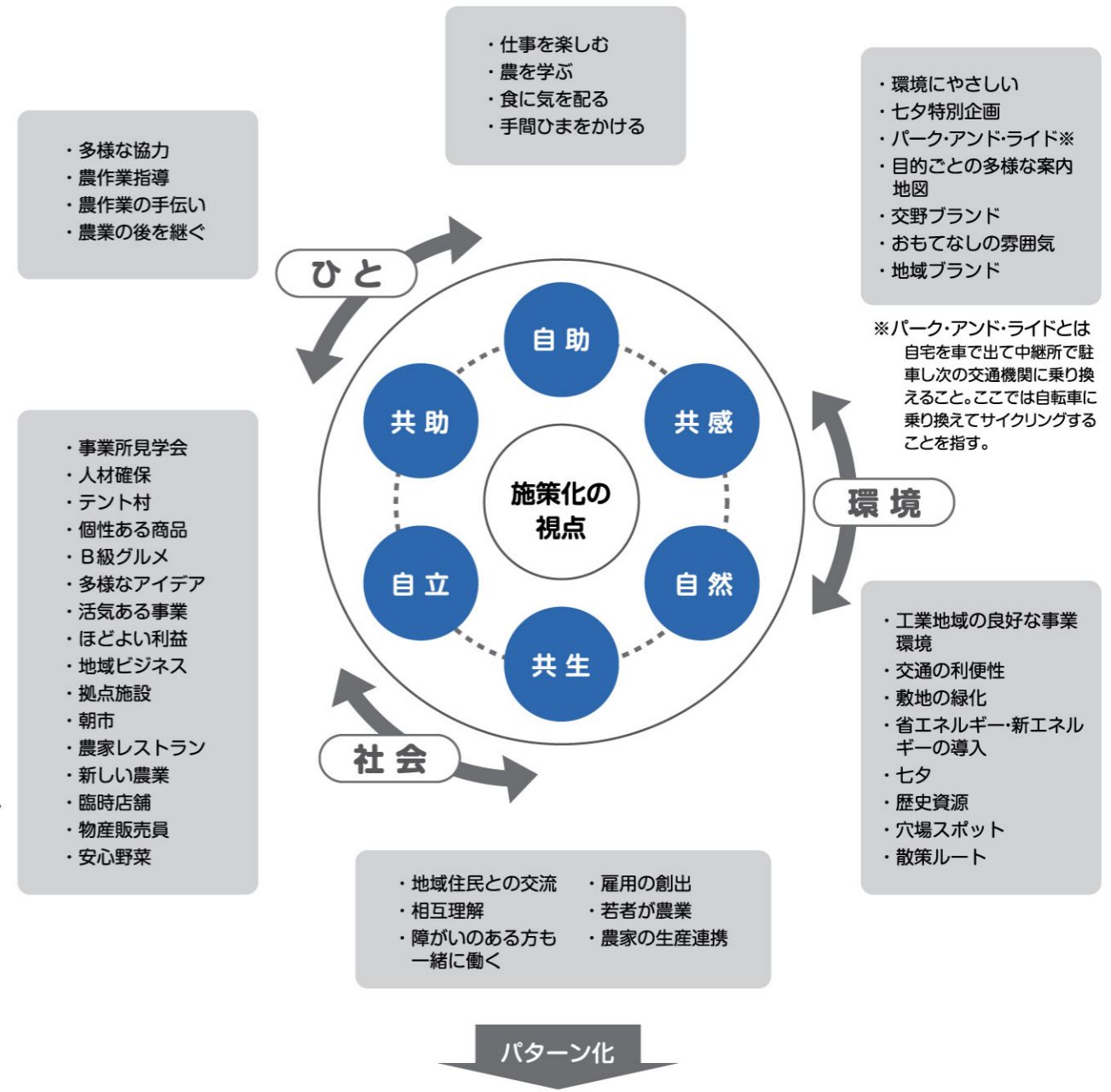
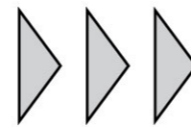
拠点となる場所もできそうで、いろんな人の雇用の場としてもなるように期待している。

(地域活性化担当者)

朝市を楽しんでいたが、頼まれて農園で指導をすることになった。みんなとても熱心で、よいものがとれる。アレルギーのあるお孫さん用にと無農薬の野菜が評判になった。手間がかかるのだが、お手伝いしたいという若者達がでてきた。農家レストランをつくりたいという。

息子も面白そうに休みの日には手伝ってくれるようになった。地元食材を使うお店が増え、あちこちの農家で野菜作りが盛んである。息子たち世代が、何やら新しい農業のやり方を検討しているらしい。農業を続けてもらえるなら、ありがたい。

(農業者)



No.	“かたのサイズ”をめざす像
11	困難を抱えている人をみんなで支えあっている
60	第二京阪道路によってまちが活性化して潤っている
69	近くに働く場があり、時間にゆとりを持って暮らせる
70	まちで営まれている事業を、みんなで盛り上げている
71	いろんな人が知恵を出し合って、新しいことが生まれている
72	いろんな人や事業、活動がまちの魅力向上に一役買っている
73	事業をしている人同士が連携し、事業活動を活性化している
74	暮らしに関する取り組みがビジネスを生み出している
75	まちの魅力を一堂に集め、発信して、共感を呼んでいる